



上智大学創立 100 周年
上智短期大学創立 40 周年
上智社会福祉専門学校 50 周年



上南戦

No. 23

1. 半世紀にわたる「上南戦」の始まり

上智大学と名古屋の南山大学との間で、毎年 6 月初旬、定期的に「上智大学南山大学総合対抗運動競技大会」（以下上南戦）が行われている。2009 年で第 50 回目を迎えたが、なぜ南山大学との対抗試合なのか、この長い歴史の始まりや経過、その背景を探ってみた。

第 1 回の対抗試合は 1960 年 6 月 25 日から 26 日の両日にかけて、南山大学で行われた。それまでラグビー部など体育会の一部のクラブが親睦の意味をかねて交歓試合として行っていたものを、本学の大泉孝学長（当時）の発意により、両大学の学生団体同士の交流および対抗試合として行ったのが発端である。目的は「上智大学も南山大学もカトリックの大学であり、カトリシズムに立脚した建学の精神を、スポーツまたは文化サークル活動を通してお互いに完成させ、未来に社会人としての人格を築く礎にまで高める」（「上智大学新聞」151 号）ことであった。

野球、サッカー、卓球、柔道、バスケット、テニス、バレー、アイスホッケーの 8 競技が行われるとともに、文化団体の交流も行われた。対抗競技は 5 対 3 で南山大学が勝利している。この総合対抗競技を定期的に 6 月に行うと正式に決定したのは、1961 年の第 2 回大会からである。その年の 4 月に南山大学運動部と本学体育団体連合会との間で正式な締結書が取り交わされた。「上智大学南山大学総合対抗運動競技大会」と名称が決定され、第 2 回大会は、上智大学を会場校として開催され、競技種目も 11 に増え、結果は上智大学が 7 対 4 で勝利している。

第 1 回に引き続き文化系団体の交流も行われ、南山大からは E.S.S.、メールクワイアーなど 7



クラブ、157 人が上京している。第 3 回大会の競技は 10 種目で、上智大学が 7 対 3 で勝利している。文化団体の交流はドイチェル・リンクと E.S.S. の 76 人が南山大学を訪れたが、文化団体連合会としての参加がなく「南山大学が非常に残念だった」との「上智大学新聞」の記事が見られる。第 4 回は南山大学から文化団体 160 人、運動部 500 人の総計 660 人が上京、年々盛大に開催されるようになってきた。



1963 年の上南戦、上智大学グラウンドで



1988 年の上智大学応援団(南山大学で)

2. 文化団体連合会の参加

しかし、1964年の第5回大会からは、体育団体連合会と文化団体連合会がそれぞれ別々の行動をとるようになる。その理由は、文化団体の交流が活発でなく、盛り上がりにかけていたことによる。また1974年の第14回大会からは、学生の経済的負担が考慮され、「大学行事に準ずる行事」として行われるようになった。しかし、1978年の「上智新聞」に「もう一つの上南戦」の見出しでE.S.S.の交流が紹介されているものの、文化団体の交流は一部の団体に限られている状態で、「大学行事に準ずる行事」とすることに対する疑問が呈されている。そのため「上南戦」は「全学行事なのか」または「体育会だけの行事ではないのか」などという批判が1983年ごろから表面化してきた。「上智新聞」では一般学生の関心も薄く、また文化団体の参加も少ないため「上南戦」は考え直さなければならない時期に来ていると、論説で述べている。さらに1984年の上南戦実行委員長の田口潤一郎さんは、文化団体の上南戦参加について「はっきり言って難しい。文化団体は積極的な関心がない」と率直に語っている。また、交流は、体育会だけでなく大学全体のものとして教職員を含めた研究レベルまでの拡大も必要かもしれないという、南山大学側の積極的な意見も出ている。

しかし、「上南戦」は、体育団体連合会のスポーツだけの交流試合のように見られるが、文化団体連合会、音楽協議会所属の団体の中では、吹奏楽研究会、落語研究会、放送研究会、E.S.S.などは、盛んな交流を行ってきた。

そして、2009年で上南戦は記念すべき第50回大会を迎え、学外の代々木競技場第二体育館を開会式の会場として開催され、上智大学が総合優勝を果たした。文化系団体では、写真部、フォークソング愛好会、法律サークル「青法会」などの交流が行われた。



法律サークルの交流会
(2009年第50回大会)



2009年第50回大会開会式
(代々木競技場第二体育館)

3. カトリックの精神を基盤にした上南戦

上智大学の設立母体であるイエズス会は、1540年イグナチオ・デ・ロヨラにより設立された男子修道会で「会員の霊的進歩の追求と他の人々の救いのために働く」のを使命としている。南山大学は、カトリック修道会の神言会(しんげんかい)が設立母体である。神言会は1875年アーノルト・ヤンセンが創立した修道会であるが、「諸民族の異教的伝統文化の中にも神のみことばの種が蒔かれているので、それを学問的に研究」することを目的にしている点や、組織形態も同一総会長のもとで全会員が出身地や国民性の別を乗り越えて国際的に団結しているのもイエズス会と似ている。

こうしたカトリックの精神的な親和性が上智大学と南山大学の交流を密にしている所以であり、南山大学が創立した1949年から両大学の交流が始まっている。その時の「上智大学新聞」には「南山との連携緊密化」との見出しで「大学祭を契機に南山大学と上智大学との文化、学術上の交歓が具体化し、大学祭には南山大学から運動部の来校があったが、日本の男子カトリック大学として両校の交歓は、今後年中行事として継続され、来年5月の南山大学記念祭には演劇、運動、新聞など本学課外活動を始め各種運動団体の訪問が予定されている」と記されている。

こうした各種のスポーツ団体の対抗試合や文化団体の交流が毎年行われていたことが機縁となって「上南戦」が始まった。